

適正な農地利用の推進

(奈良県・山添村農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

【農業委員会の体制】(平成29年7月20日移行)

○新体制:農業委員14人、農地利用最適化推進委員10人

○旧体制:農業委員23人



1 地区の特徴・状況、課題

- 山添村は奈良県の北東端に位置し、大和高原と呼ばれる地域の一角で、東部は三重県伊賀市及び名張市、北部及び西部は奈良市、南部は宇陀市に隣接している。
- 水稲と茶が基幹作物となっており、特に茶は標高120m~620mの冷涼地で昼夜の温度差の大きい気候により、香り高い良質な茶が栽培でき、大和茶としてブランド化されている。
- 中山間地域で条件の悪い農地が多く、農業就業者の高齢化と人口減少による農地の遊休化が問題となっている。

2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○ 耕作放棄地解消の取組の実施

- ・耕作放棄地解消モデル地区として、農業委員及び農地最適化推進委員が自ら解消活動を行い、耕作放棄地約7aを再生し、秋みょうがの栽培を実施。耕作放棄地に対して手間がかからず栽培できる秋みょうがの普及を行っている。

○ 戸別訪問による農地利用意向調査の実施

- ・農地パトロールにより発見した耕作放棄地所有者に対して、農業委員及び農地利用最適化推進委員が戸別訪問により意向の把握をし中間管理機構の活用を推進している。15haを中間管理機構を活用し集積。

○ 非農地判断の実施

- ・山林化している等、再生不可能な耕作放棄地の非農地判断を推進し、将来的に農地として活用できる土地と活用できない土地の選別を行い適正な土地利用を進める。令和元年7月に7.8haを非農地判断。今後も積極的に非農地判断を行う。